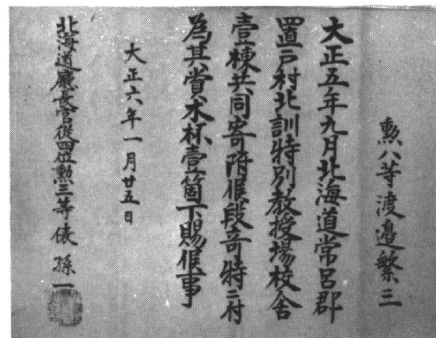




雑穀景気

価格高騰でいも成金も



昔は校舎等の個人の寄贈もありました

大正3年の欧州大戦、いわゆる第一次世界大戦のぼっ発によって、ヨーロッパにおける食糧生産が低下した影響で、置戸が分村した同4年頃から農作物が徐々に高値となり、同6年には青えんどう、金時、手亡、馬鈴薯、でん粉などは、戦前の5倍から10倍に値上がりし、青えんどう1俵で白米1俵と味噌醤油1樽買ってつり銭さえきました。

北見市史年表によると、同5年北見地方の青えんどうは、平均反収で8斗9升7合、11月相場では、1石平均33円42銭となっています。また、でん粉1袋が18円と高騰し、いわゆるいも成金もでて、大いに馬鈴薯が増反されましたが、当時の米価は1俵5～6円ですから、その暴騰ぶりは計り知れないものがありました。同2年の冷害凶作で耕作意欲を失い、山稼ぎに専念しようと思った人も、再びにわか百姓となって鋤を持ったのも当然です。

同5年の網走支庁管内農作物収入統計を見ると、「支払総額439万6,000円のうち貯金18万9,000円、土地購入52万6,000円、旧債償還100万円、家畜購入9万2,000円、農機具購入2万8,000円、その収

入の44%を占め、残り56%の多くは酒食に消費せするものとみられる」とあり、これには生活費が見られていないので、実際は酒食に用いられた金は少ないでしょうが、料飲店を利用したのは、あながち木材業者ばかりでもなかったようです。

新興村の財政的にも苦しいなかで、村役場庁舎の建設、境川小学校の改築、春日教授場、川南教授場の開校、訓子府小学校、置戸小学校の改築と相次いでいますが、これらに住民が応分の寄附をできたのも、木材、雑穀、でん粉景気のお陰ともいえます。

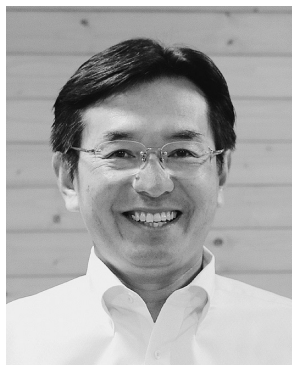
(参照『置戸町史上巻』)



大正8年に改築された役場庁舎

新たに置戸町に
来た方を紹介する

みなさんこんにちは



すが わたる
菅 濟 さん

置戸小学校教頭

【前任地は】美幌小学校
【出身は】余市町生まれ
【ご家族は】妻と社会人、
大学生の息子2人

【なぜこの仕事に】子供が好きだったことと、子供に野球を教えたいから。

【皆さんへ一言】置戸町は小さい頃育った場所に似ていて、懐かしい感じがします。町の宝である子供たちを、町の皆さんと一緒に育てていきたい。皆さんよろしくお願いします。



おお がき みつ お
大垣 光夫 さん

役場総務課
総務係兼職員係主事補

【出身は】訓子府町生まれで北見緑陵高校を卒業
【ご家族は】母親
【趣味は】中学、高校は

吹奏楽部でチューバを吹いていました
【なぜこの仕事に】きれいな街並みを見て、ここで働きたいと思い応募しました。
【皆さんへ一言】一生懸命学んで早く仕事を覚え、町民の皆さんの力になれるよう頑張ります。